

翻弄する魔道士



CRIMSON COMICS



激化する戦争のため
最前線に身を投じた師匠にかわって
アカデミーを一人で守ることになった
ブラックマジシャンガールは
日夜 モンスターたちと戦い
その体は疲弊しきっていた。

ギギ

そんなある日
師匠のブラックマジシャンが
突然帰ってきた

師匠！

喜ぶマジシヤンガール
だったがそれもつかの間、
すぐに気付いてしまった…

師匠か洗脳されていそう…

翻弄する魔道士

作者 / カーマイン

ブラックマジック
黒・魔・導！



きゃあああ！

もちろん師匠である
ブラックマジシャンに
魔力でかなうはずもなく

なにより
洗脳されているとはいえ
敬愛するブラックマジシャンを
傷つけることなどできなかった



ではお前の体を
いただこうか

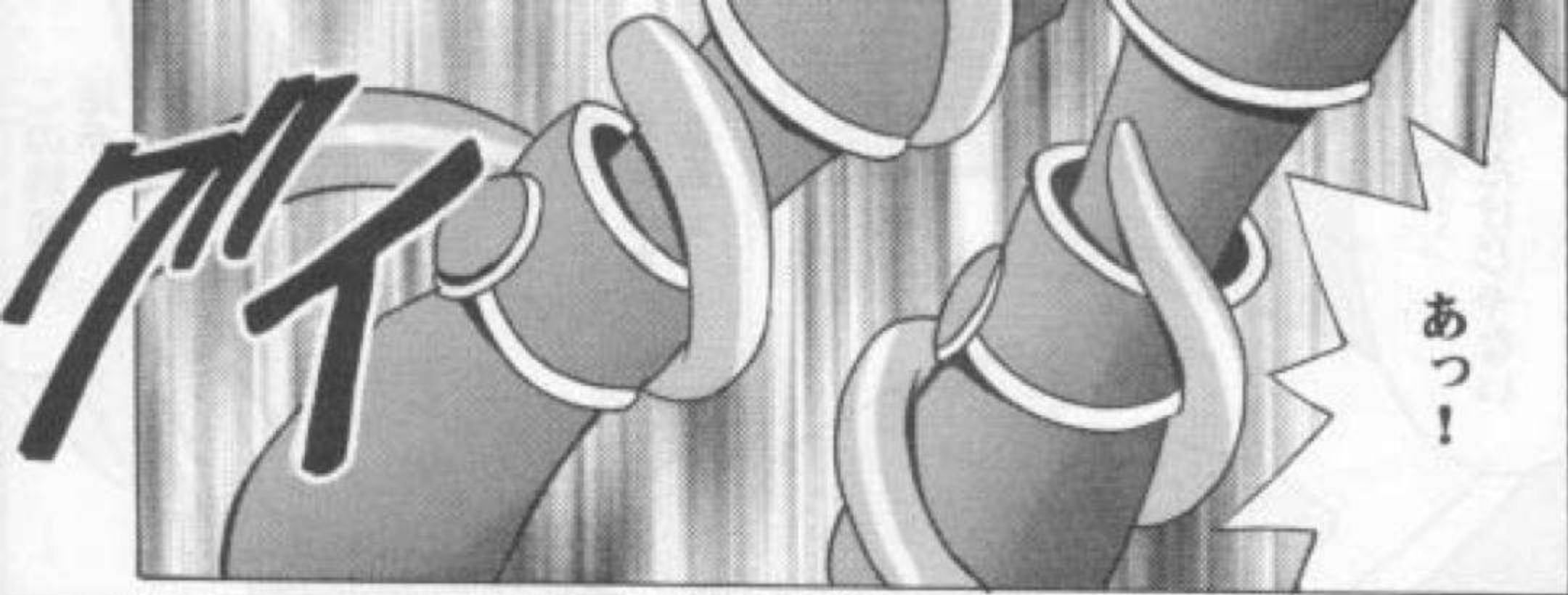
ブラックマジシャンが
宝珠をかざすと
そこから無数の触手が
マジシヤンガールに向かって
伸びていった。

いやっ！
何するんですか
師匠！

その力は凄まじく
かよわい少女の腕では
抗うことはできなかつた。

我が弟子ながら
こうして見ると
なかなか可愛いものだな

ククク...



あつ！



やつ！

絡みつく触手が
マジシャンガールの体をもちあげ
無防備な太ももをさすられる。
そのままいやらしい手つきで徐々に
内股のほうへと移動してくる。

この綺麗な
足が

もうすぐ
オレのものに
なる…

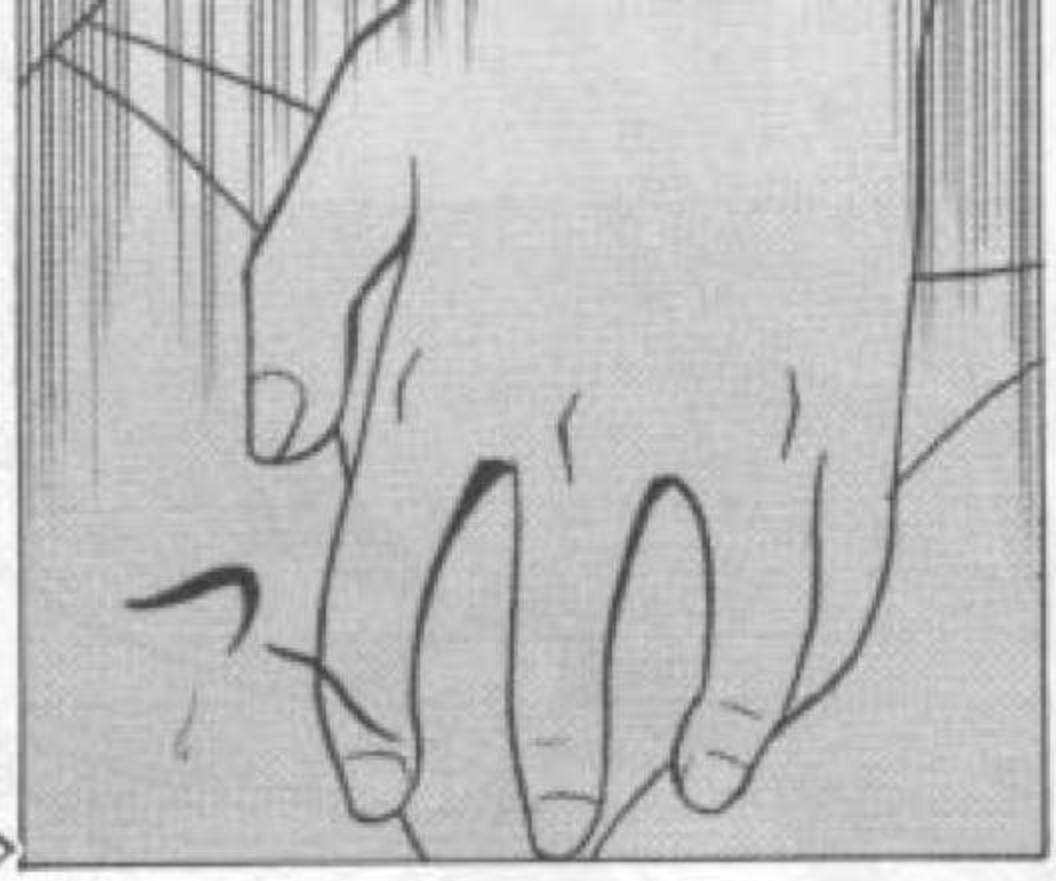
いや…
足だけじゃない



あっ！

だめっ…
そこは…！

お前のすべては
オレのものだ



ピョッ

師匠の指先がもつとも敏感な部分に触れる。

中指で秘裂にそって何度も何度も挿き上げられ執拗に愛撫された蜜壺から次第に愛液がにじみ出てきた。

.....!



ククク...

もぞもぞ

んっ...!

もぞもぞ

突起を探り当てられ
指で下着ごしにクリクリと
揉まれると強烈な疼きが
膣まで突き抜ける

地に足をつけない
不安定なこの姿勢では
いくら腰を引いても
指から逃れられない

魔力は成長しない
くせにこういふとこるだけ
成長しやがって…

さやっ—

ハッ

あっ！

随分大きく
なったじゃないか
ククク…



あっ！

思う存分
いじつてやろぞ

バツ



いつか「う」してやろぞ
思っていたんだ...

っ！

バツ



お前を弟子に
したときから

っっっ

師匠に濡れそぼった陰部を
見つめられ、少女の全身に
屈辱感が走っていく。

本当に感じやすい
体なんだな...

愛撫のしがいがあるよ...ククク

あつ...
ダメツ!

はあ!!

あ!!

ドクン

くちゅ くちゅ

淫核の包皮は剥きかえされ
別の指は少女の中を
深々とえぐった。

そうだ
いいぞ……!

ダメっ!

ダメですっ!

びびっ

あっ!

クチュ
クチュ

もつと
噛げ……!

ああんっ!



絶頂に達した
ブラックマジシャンガール。
と、同時に大量の魔力が
漏出していくのを感じとられた。

「えっ……！」

「……口ははずだ
お前のすべてをいたたきとくな……
……ククク……」



どうやらエクスタシーに達した瞬間に多くの魔力を吸収されることが分かったマジシヤンガールは

これ以上は感じないようと下唇を強く噛んでこらえようとするとその努力は無駄だった。

ふるふる

くちゅ

くちゅ

やがて今までは手足を拘束していた触手が少女の秘部へと伸びてくる

チル

チル

やあー!!






ほら
おとなしくしてー

キーン

いゃあっ!

キーン

キーン



太い触手がアナルを
一気に貫いた。
その触手は自在に動き回り
少女の内部をかきまわす。

うあ……!!

はあ……!!!

あまりの強烈さに
後頭部をのけぞらせ
絶叫するマジシャンガール。

グッ
グッ
グッ

師匠に片足を持ち上げられ
やすやすと侵攻を許してしまう。
それでもなんとか必死に
陰門を引き締め異物を
さえぎろうと試みたが
すでにアナルを深々とえくりぬかれた
今の状態では力は入らなかつた。

ズズズ
あああ！！

あ！！

フル

フル

当然のごとくもう一方の
淫穴にも忍び寄ってくる触手。

や！！

二つの穴はみだらな触手に責められ
硬くしこった乳首は師匠に
ねちっこくこねまわされたり
吸われたりして責められる



突然、膣内に深く入っていた
触手の先端が開き
舌のようなものが出てきた



その舌で
決して触れられないような
奥のほうまで舐めまわされる

胸と股間への三点、
同時責めの前に屈し、
もたえる少女。
ビクビクッと脈動を繰り返し
終わりのないエクスタシーに
突入してしまった。

あッ!!

グッ
チュ

グッ
チュ

ほらいけ！
イツつてしまえ！

ほあ

ほあ

ほあ

あつ！

もみ

もみ

やっ！

グリ

グリ

ダメっ！

ニチャ

ニチャ

絶頂に達するたびに
魔力が吸い取られることが
分かっていながらも
もはやマジシャンガール本人の
意思では快感を抑制することは
できなかつた。

あっ！！

グク

グク

グク



— J 844 —

ああ!!
クッ
クッ
クッ



結局、十数回イカされ
魔力のほとんどを吸収
されてしまった。

まさに精も根も尽き果て
ぐったりと倒れこむ
ブラックマジシヤンガール。

「ククク…魔力はすべて頂いたし
オレとしてはもう用済みだが
まだこの体は利用価値がありそうだな。」
ブラックマジシヤンが合図をすると
異形のモンスターたちが
ぞろぞろと人ってきた。



お前達

この女の体
好きにしているぞ



ごやあごー

やつ!
はなして……!

ハッ



お世
だら
!!

ムニムニ

ムニムニ

ムニムニ

おみ

クリクリ

あー!

ツルツル

ピョチャ

ピョチャ

魔力を失い、ただのか弱い一人の少女になりさがったマジシャンガールがモンスターに太刀打ちできるはずもなく身動きできない体を好きなように囮られ陰部のウィークポイントを的確に責めてくる舌の動きに再び絶頂へと突き上げられそうになる。



あっ……

ひああっ！

アッ

アッ

ハッ



やだっ……!

ぬ……
抜いて……!



あ
あ
!!

グ
チユ

グ
チユ



細い繊毛のような触手が
穴の隙間を詰めるように
侵入してくる。
一本一本が意志をもつかのよう
に少女の快感の源泉を探り当て
集中的に責められた。





ああ
!! ああ



その後も人間の何倍もの
精力をもつモンスターたちの
陵辱は果てしなく続いた。

ブラックマジシャンガールの
悲痛な叫びは
洗脳された師匠に
届くことはなかった……。

ビクッ

あとがき

ブラックマジシャンガール本です。確かに個人的にもブラックマジシャンガールはかわいいとは思っていましたが、ここまで人気があるとは思いませんでした。意外なものです。原作ではカードですものねえ…。

今回は原作では全然しゃべらないキャラクターということもありましてセリフを少なめにしました。そしてクリムゾンコミックスではかならず大量に発生する「心の声」をいっさい廃止して、そのかわり客観的な文章で心情や状況を表現してみました。いつもなら左図のような感じになるでしょう。どっちがいいのかは一概には言えませんね…。

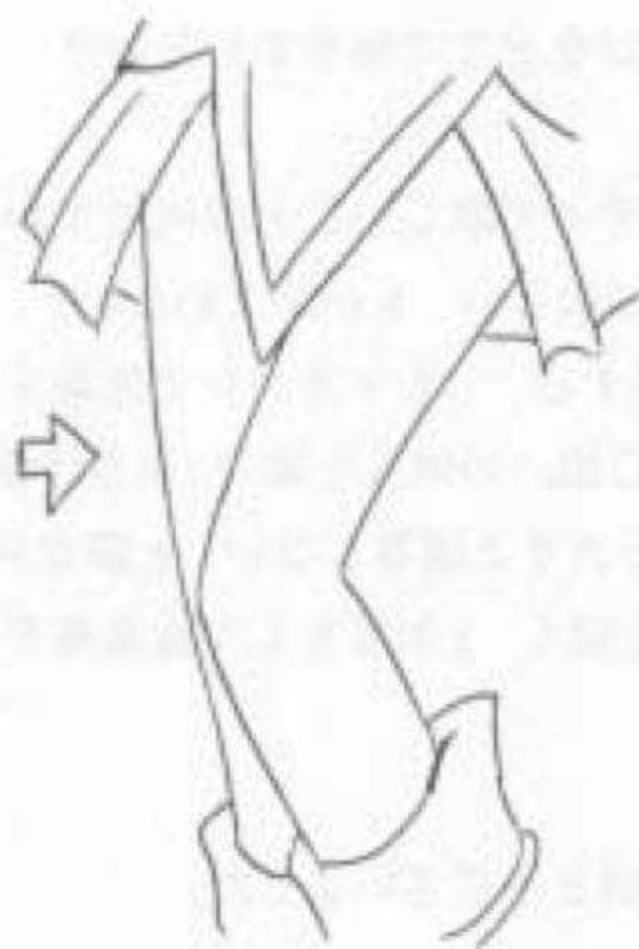
どっちのほうがいいのか、どっちのほうが実用的か、ご意見お待ちしております。メールにちょっとかいてくれるだけで結構ですので。

作画的には今回は異様にトーンが多かったと思います。

まあ キャラクターのデザインがそうだから仕方ないとは思いますが最近 イヴ ヒナタ ティファ キョウコなど ベタ中心のキャラクターばかり描いていたのでこういうトーンのおおいキャラクターは新鮮でした。

(私はもともとトーンをあまり使わない派の人間なので)
なかなか自分的には悪くないとは思いますが。
ただいつもよりも時間がかかりましたね。

心残りといえば 右図のような交差した足がもっと描きたかったのですが、構図の都合上あまり登場しませんでした。残念。
この本、二巻でるのかなあ…？



やだ…
こんなのやだよ！

おねがい師匠
はやく正気に戻って！

ほら
おとなしくしろ！

いやあつ！



クリムゾンコミックス A22-1

人間の何倍もの精力を持つモンスターたちの
陵辱ははてしなく続いた。悲痛なブラック
マジシャンガールの叫びは洗脳された師匠には
届くことはなかった…。

FOR ADULT ONLY